

本書は、生徒が本文や図版を基に、問いや疑問(課題)をもてるように編集しています。生徒が主体性をもった自由で対話的な学びは、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な公民的資質を備えるべき第一歩となります。

そのような学びの基礎となるものは、歴史に関する幅広い知識と教養です。本書は歴史研究に基づく多様で興味深い歴史の事実を、本文や図版にあらわしています。生徒は問いや疑問を基に、自らその事実の内実や意味を追求し、真理を求める態度を形成していきます。

重点としたのは、各時代に生きる人びとの姿です。自然の中で、勤労に励み、生命を尊重し、環境保全に努めてきたことを、人類誕生以来の営みとして描いています。そこから生徒は、人間の尊厳や個人の価値、創造性や自主・自律の精神の大切さに気づきます。培われた伝統と文化を尊重し、それを生み出した人びとへの感動を引き出します。

本書は世界史教材を多様に設定しました。各地の人びととの共存や連帯の意識を生み出すとともに、自国や地域を主体的に認識し、戦争の惨禍に関する本文・図版に接して、国際社会の平和と発展に寄与する態度を培っていくことを期しています。

各時代の女性の生きる姿を具体的に描き、男女の平等・自他の敬愛と協力を重んずる態度を養えるようにしました。また、生活の困難を乗り越えようとする人びとの姿、沖縄やアイヌの人びとの取り組みも具体化し、生徒が正義と責任を重んじ、公共の精神に基づいて、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を培えるようにしました。

第2条(教育の目標)を実現する本文叙述 (一部抜粋)

- 第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- ラミダス猿人の骨、アブ・フレイラ遺跡、野尻湖遺跡などの遺跡・遺物を詳しく取り上げ、生徒が考古学者のような気持ちになって実証的に探求し、知識や真理を求める態度を養えるようにしました。(第1章)
 - 蘭学や国学などの新しい学問を開いた人びとの熱意と努力を通して、真理を探究する態度を養えるようにしました。(第5章)
- 第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 荘園に住む人びと、手工業や流通に携わる人びと、惣村の人びとなど、働く人びとの姿を政治や社会のしくみの中で理解し、自主・自律の精神や、勤労を重んじる態度を養えるようにしました。(第3章)
- 第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 戦後改革と社会の変化を理解し、初の女性の国会議員や子供議会などを通して、主体的に社会に参画する態度を養えるようにしました。(第10章)
- 第4号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 8世紀の伝染病や大地震、陸奥国大津波など災害の歴史に目を向け、生命を尊び環境保全に寄与する態度を養えるようにしました。(第2章)
- 第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。
- 『万葉集』『日本書紀』『古事記』『風土記』『源氏物語』『枕草子』などの書物を通して、当時の人びとの信仰、物の見方や感じ方に気付き、文化への関心を深められるようにしました。(第2章)
 - 外山亀太郎のカイコの遺伝の研究や黒田清輝の洋画など学問・教育・芸術において、伝統的な文化の上に欧米文化を取り入れて近代文化がつけられていったことを理解し、日本の文化への理解を深めてこれを尊重する態度を養えるようにしました。(第8章)

株式会社 学び舎

〒190-0022 東京都立川市錦町 三丁目1番3-605号室 TEL/042-512-5960 FAX/042-512-5961
ホームページ <http://www.manabisha.com> E-mail アドレス manabisha123@cronos.ocn.ne.jp

2025
(令和7)年度
中学校歴史

内容解説資料

学び舎

ともに学ぶ
人間の歴史

中学社会

歴史的分野

学び舎

ともに学ぶ
人間の歴史

中学社会 歴史的分野

学び舎

中学校社会科用 文部科学省検定済教科書 229 学び舎 歴史 229-72

1 子どもが読む、歴史が好きになる

執筆・編集者のメッセージ



安井俊夫

元愛知大学/学会代表

「問いが生まれる、子どもの心を動かす」

この教科書は「子ども用の本」です。歴史教科書は、重要語句を中心に説明調で書かれていますから、子どもが自ら読むには不向きでした。場面ごとの歴史のイメージが浮かんできません。この教科書は、そこを一新。子どもが読む、何か感じる、疑問がわいてくる、そんなことができるようにつくりました。

奈良時代の農民のところでは、律令制など社会のしくみの説明から入るのではなく、各地の人びとの姿を描いています。まず、ムラの産物を背負って都の平城京へ運んでいく姿が図版とともに描かれます。安房(千葉県)の女性たちは麻で布を織り、さらに海に出て、アワビを採って乾燥させ、秋になるとこれらを都に運ぶ荷物にまとめます。このような人びとの働く姿から社会のしくみに目を向けていきます。



山田麗子

元公立中学校教員/学会副代表

「歴史のなかから、人びとの声が聞こえる」

学び舎教科書には、子どもや女性がたくさん登場します。歴史の裏に隠れがちな人びとの姿に接することで、自分につながる歴史を学ぶことができます。働く子ども、飢饉のときに売られる子ども、戦火の中を逃げまどう子どもの姿からは、より一層時代の特色が浮かび上がってきます。寺子屋をはじめ各時代の学校での学習も詳しく記述し、社会が進んでいく方向を子どもの姿を通してつかめるようにしました。

女性の働き、学び、権利の運動なども多く描きました。例えば、邪馬台国の卑弥呼は巫女的存在とされがちですが、外交手腕のある首長として登場し、各地で女性首長が活躍した時代であることを記述しました。教科書から人びとの声が聞こえ、語りかけてきます。

■ 教員たちがつくった歴史教科書です

執筆者はみな教員(元教員)です。日々の授業づくりの実践・研究をもとに執筆し、研究会で何度も検討して内容を深めました。子どもの学びの道筋を考えぬいた教科書です。

■ 最新の歴史研究を取り入れています

歴史研究者からコアアドバイザーとして校閲・助言を受け、最新の歴史研究を取り入れた教科書です。

コアアドバイザー

荒川章二(元国立歴史民俗博物館) 池 享(元一橋大学) 大日方純夫(元早稲田大学) 藤田覚(元東京大学) 古田元夫(日越大学) 保立道久(元東京大学) 宮瀧安二(大東文化大学)

2 主体的な学びを育む

主体的な学びは魅力的な教材との出会いから

「歴史の授業は教師の説明が中心になりやすい」「生徒主体の授業づくりは難しい」「語句の暗記に陥りやすい」…こうした声を多くの先生から聞きます。学び舎教科書の執筆陣もみな、教員(元教員)です。同じような悩みの中から、生徒が目を輝かせる教材を発掘し、主体的に学ぶ授業を追求してきました。そうした研究の蓄積から手ごたえのある教材を厳選し、検討を重ねて学び舎教科書は生まれました。

学び舎教科書は、「身をのりだして何か言いたくなる」「発見や疑問がたくさん出る」「思わず自分の身にひきつけて考えてしまう」、そのような生徒の関心を引き出す図版や記述で構成しています。歴史の人びととの新鮮な出会いによって、生徒が自ら感じ考える主体的な学びが始まります。

新しい学習指導要領の方向に適合しています

2021年度から施行された新学習指導要領は、「主体的・対話的で深い学び」を掲げています。歴史のできごとを様々な視点から関連づけて考察・表現したり、意見交換や討論などにより考えを深めたりすることが大切とされています。こうした主体的な学習は、魅力的な教材との出会いから始まります。

「あるページを読んでいたら、次のページもめくってみたいくなる」学び舎教科書は、このような深い関心を引き出して、教室での対話的な学びを培います。

高校の新しい科目「歴史総合」とスムーズに接続します

2022年度から、高校で新設科目・歴史総合が必修となりました。歴史総合は、日本史と世界史を分けず、日本と世界のつながりを関連づけた近現代史です。また、知識を詰め込むのではなく、生徒たちが調べたり議論したりすることを重視しています。暗記に頼った学習でなく、日本や世界の歴史に興味・関心を抱き、自ら学ぶ姿勢が重要となっています。

学び舎教科書は世界史を重視し、世界と日本のつながりの中で歴史を学習できるように構成しています。中学の歴史学習で育まれた主体的な学習は、高校の歴史総合とつながり、若い世代の豊かな歴史認識を培います。

第6章(2)バスチーユを攻撃せよ —フランス革命— pp.140~141▶

江戸時代の身分や政治の学習とのつながりを感じながら、フランス革命を学べるように記述しています。



教科書の構成

第1部 原始・古代

- 第1章 文明のはじまりと日本列島
- 第2章 日本の古代国家

第2部 中世

- 第3章 武士の世

第3部 近世

- 第4章 世界がつながる時代
- 第5章 百姓と町人の世

第4部 近代

- 第6章 世界は近代へ
- 第7章 近代国家へと歩む日本

第5部 二つの世界大戦

- 第8章 帝国主義の時代
- 第9章 第二次世界大戦の時代

第6部 現代

- 第10章 現代の日本と世界

各章のはじめは [地球を見渡す扉ページ]

各章・各部の終わりにまとめと表現活動

歴史を体験する

- 火おこし/
- インターネットで「洛中洛外図屏風」を見る/
- 地域の歴史を歩く/綿から糸を紡ぐ/
- 対話・討論にチャレンジ/人物調べ/
- 家族の歴史を調べる

充実した年表と索引

全 18 ページ

章の扉

各章の扉ページには、北極を中心とする世界地図を描いています。章のテーマに基づいて、その時代の各地のようすを表す写真や絵を配置して、生徒の興味・関心を引き出すようにしました。部の冒頭には、大きな時代を見渡した学習課題を置き、課題意識の育成をはかりました。

紀元前1000年

紀元前500年

紀元

500年

1000年

1500年


2000年

第3部 近世

第4章 世界がつながる時代

海でつながる世界

① 第4章の扉ページでは、世界をつないだ交易や人の移動を追いました。



▲山で集められるアメリカ先住民
アメリカ大陸の山で働く人びと
スペイン・ポルトガルが発見した鉱山や農園では、先住民が働かされました。きびしい労働や病気によって人口が激減すると、アフリカから、黒人が奴隷として、連れてこられました。

▲トマト、トウモロコシ、トウガラシ
アメリカ大陸の植物が世界の料理を変えた
トマト、ジャガイモ、トウモロコシ、トウガラシ、カカオなどは、アメリカ大陸産の作物です。スペインやポルトガルの活動によって、世界に広まりました。

▲アメリカ大陸に広がった伝染病
スペイン・ポルトガルから宣教師が海を渡り、先住民や奴隷にキリスト教を布教しました。人とともにヨーロッパから広がった天然痘などの伝染病で、多くの先住民が死にました。

第5部 二つの世界大戦

第8章 帝国主義の時代

変わる世界の女性たち

① 第8章の扉ページでは、世界大戦のなかで変わった女性たちの姿に光をあてました。

▲アメリカ合衆国の女性たち
アメリカでは、第一次世界大戦を通じて経済が発展し、家電製品が普及し始めました。女性の社会進出がすすみ、さまざまな職業につくようになり、参政権を得て、政治にも参加するようになりました。

▲参政権を求めるデモ (1913年)

▲1880年代のドレス
フランスの女性たち
コロ・シャネルは、女性の身体をしめつけていたコルセットを使わずに、伸縮性のあるジャージ生地を使ったドレスを作りました。また、黒一色のドレスを発表し、黒は装束の色というイメージを変えました。

▲トルコの女性たち
第一次世界大戦後、トルコでは革命が起こって、共和国が誕生しました。初代大統領は、欧化政策をすすみ、ムスリム(イスラム教徒)の女性が着るヒジャブ(頭や体をおお布)は好ましくなくなりました。

二つの世界大戦の学習課題

兵士だけでなく国民全体が、長期の戦争を戦いました。戦争をへて平和への願いが高まり、女性の声や民族運動も高まってきました。しかし、世界大戦はくりかえされ、多くの破壊と死をもたらされました。困難な時代に生きた人びとの声や体験から学びましょう。戦争は人類に何をもちたのでしょうか。話し合い、考えを深めていきましょう。

▲日本の女性たち
1920年代になると、都市では洋服姿の女性が現れるようになりました。医師、電話交換手・デパート店員・バス乗務員など、さまざまな分野で活躍し、職業婦人と呼ばれました。



▲船載品から下ろされた荷物 (中国産絹織物)

▲石見の銀が世界に
朝鮮の技術が伝わって、銀山の開発がすすみ、生産量が増えました。幕府参勤交代の戦費は、石見の銀で支払われたといわれます。

▲近世の学習課題
海洋を行き来して、遠く離れた国と国がつながります。人びとの交流が新しい時代を開きます。地域と地域がつながって、新しい文化が育ちます。天下を統一した武将たち、力をつけた百姓・町人たちの姿を見ていきましょう。地域に残る歴史の跡や資料からも、当時の人びとの生活を見ることができます。近世の新しい動きを、さまざまな角度から考えてみましょう。

各章の扉ページのテーマ

- 1章 動物とともに生きる
- 2章 宗教の広がり
- 3章 世界を結ぶ交通手段
- 4章 海でつながる時代
- 5章 世界遺産に見る世界
- 6章 万国博覧会に見る世界
- 7章 岩倉使節団が見た世界
- 8章 変わる世界の女性たち
- 9章 大戦の終わりを迎えた世界
- 10章 今、世界の子どもたちは

4 特色ある図版と記述から、疑問や問いが生まれる

大きく鮮明な図版

一人ひとりの発見や疑問から授業が始まります。

読みやすいリアルな文章

歴史の現場に引き込まれ、「なぜだろう」という問いが生まれます。

多彩な地図・グラフ・側注

さまざまな面から考えを深め、授業展開を豊かにします。

太字をなくす

主体的な学習を妨げる太字をなくしました。

予想される生徒の疑問や問い

「立派な店が並んでいる。人が多い」「どの店も樽を置いている。なぜ?」「『ひたちや』『いせや』はどんな店?」「供を連れた武士や旅の武士がいる」「傘をさしている女性。美意識が高い」「馬がいる」「駕籠かき」「車を引いている人」「担いでいる人」「重労働だ」「道で野菜を売っている」「天秤棒で運ぶのは難しそう」

「棒手振は移動販売だ」「便利だね」「『あさあり、むっきん』を聞き逃したらその日は買えないのかな」

「男性が多いのはなぜだろう」「その日稼ぎが28万人とは貧しい人が多い」

「橋をかけて上水を通す施設が立派」「見守番屋はどんな仕事をするのか」

「上赤味噌大安売、太田屋の看板がある。味噌屋だ」「壁が黒くて窓が立派。屋根にのっているのは何?」

「日本橋に魚市場があった」「棒手振はここで魚を仕入れていたのか」

「天秤棒があるから住人は棒手振だ」「畳がない」「四畳半かまど・土間付き」「持ち物が少ない。着替えはあった?」「ご飯がある。おかずは何だろう」「ご飯は朝炊いたか、夕方に炊いたか、昼食はどうしただろう。弁当か」「行灯がある。夜は何をしていた?」「休日はあったか」「楽しみはあった?」

「便所の中身を売るとは大家は頭が良い」「家賃300文は今の金でどれくらい?」「家賃が払えなくなったらどうなる?」

「上水道と木樋と井戸がすごい!」「水が江戸の命だった」

「かけそば16文は今の金でいくら?」「棒手振はかけそばを食べられたか」

「女性の仕事にもずいぶん差がある」「裏長屋に手習いの師匠がいたということは、長屋の女子も学んでいたのか」

「裏長屋の人たちの願いは何だろう」「困ったこと、嫌なことは何だったか」「この時代をどんなふうに使っていたか」



①室町一丁目あたり/『歴代勝覧』は、江戸の神田から日本橋まで約760mの表通りを描いている。(『歴代勝覧』ヘレン・リン・独立アリア美術館蔵)

(7) 裏長屋に住む棒手振 — 江戸の町の暮らし —

棒手振が魚などを売り歩く。彼らは、そしてそれを買う人びとは、どんな暮らしをしていたか。

江戸の町方の人口(1843年)
男 30万6451人
女 25万7236人
合計 56万3687人
*江戸以外の土地で生まれた人が、人口の30%
*その日稼ぎの人 28万1844人
(『源氏物語』による)

日本橋の表通りと裏長屋
『歴代勝覧』という絵巻物には、江戸の日本橋の表通りの大きな店88軒とさまざまな身分・職業の男女1671人が描かれています。天秤棒をかついだ棒手振が魚や野菜を売り歩いています。市場などで商品を仕入れ、「あさあり、むっきん」などと独特の売り声を出しながら、表通りや路地をまわって売り、その日の金を稼ぎました。大商店が並ぶ表通りから路地に入ると、裏長屋が軒を連ね、そこには大工などの職人、棒手振や日雇いの労働者などが住んでいました。

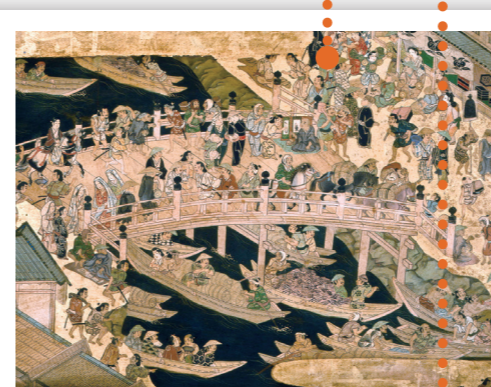


②神田上水/上水は外堀(神田川)にかけられた橋を通った。右の土手に見守番屋があり、うなぎ屋を営業していた。(『東川伝』東郷名所・御茶之水之図) たびこたの博物館蔵)

百万都市・江戸

17世紀、幕府は江戸の町づくりをすすめ、日本橋を中心に、商人・職人などが住む町人地を造成しました。町人地は1町(約109m)四方に区画し、青物町、鍋町、瀬戸物町などと名づけました。家屋敷をもつ町人身分の人は、町の自治に関わり、火消・木戸番などの役をうけもちました。

町人地は埋立地で、飲み水がえられません。そこで幕府は水源を探し、井の頭池(東京都三鷹市)から流れる神田川の水を使うことにしました。地下に木樋をめぐらし、武家屋敷や町人地まで送りました。神田上水の総延長は67kmにおよびました。江戸の人口がふえると玉川上水もつ



③日本橋と水路(江戸名所図説)出光美術館蔵)

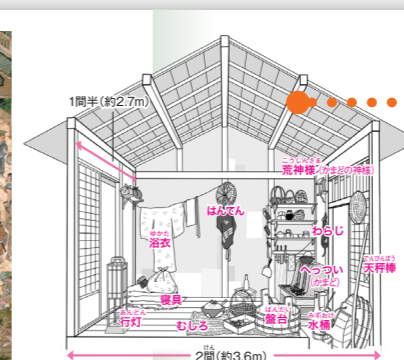
くられました。町人地には水路がはりめぐらされ、隅田川の河口や江戸湊から船が入りました。近郊からは野菜や魚が、全国から米や生活物資が運び込まれ、河岸に荷揚げされました。日本橋には魚市場、神田には青物市場がつくられました。築地・深川などの下町が開発され、18世紀には、「大江戸八百八町」とよばれるほど町がふえました。江戸は、武家地・町人地を合わせ、人口が推定100万人をこえる巨大都市に発展しました。

裏長屋の暮らし

18世紀には、50万人をこえた町方の人びとのうち、半数以上が裏長屋を借りて生活していました。一般的な裏長屋の軒分の部屋は、畳敷か板敷の四畳半に、かまどのある土間がついていました。月払いの家賃は300文ほどで、大家が地主の代理人として集めました。

棟と棟の間のせまい通路には、共同で使う井戸、下水の溝、ごみ溜め、便所が設けられていました。井戸は、水道管から井筒に引いた水をくみ上げて使いました。便所の糞尿は、大家が江戸周辺の百姓に売りました。裏長屋には、家族持ちだけでなく、独り暮らしの男性も多く住んでいました。百姓の二男・三男で働き口を求めてきた人や、きんのため村で暮らせなくなった人、農作業のないときに出稼ぎに来て、そのまま住みついた人などさまざまです。地方の農村から出てきた人たちは、江戸の人別帳に登録されて、町の住民となりました。

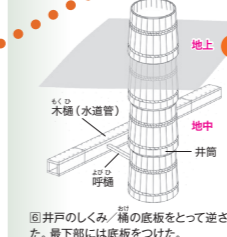
江戸には、武家屋敷で家事や礼儀の見習いをする豊かな家の娘や、口減らしに売られた貧しい家の娘もいました。武家屋敷や商家に住み込んで、掃除・炊事・雑用などをする女性もいました。裏長屋に住む女性たちの多くは、洗濯や物売りなどをして、その日の金を稼ぎました。髪結いや助産師、三味線などの芸事や手習いの師匠もいました。



④棒手振に住む裏長屋(『東川伝』資料館蔵)



⑤共同井戸・便所とごみ溜め(『東川伝』資料館蔵)



⑥井戸のしくみ/樋の底板をたって逆さに重ねた。最下部には底板をつけた。



⑦慶長のそば屋/江戸時代中期、かけそばは1杯16文だった。

5 時代を生き、歴史を支えた 人びとと出会う

歴史上の人物

指導的な人物だけでなく、さまざまな分野・階層の人びとの生活や社会的な業績を叙述しました。子どもも多く登場し、生徒の共感を呼び起こせるようにはしました。

(10) 職人歌合の世界 —産業の発展と惣村—

【職人歌合】から人びとの声が聞こえてくる。このころ市町村はどのように変わっていったか。

帯と絹のネットワーク
京都の職人は、中国から輸入したものに次ぐ高級品でした。その原料の生糸も、おもに中国から輸入してました。生糸を染めて絹に織るのも、女性の仕事でした。織った絹織物を手広く女性むけに販路を広げました。京都の幅広い範囲で、絹を売れる権利をにぎっていました。

自治の村々—惣村
14世紀ころから、地方では村の自治がすすみました。これまでもと変わって、あまり田畠をたない村びとや若者が、村の運営に参加するようになりなりました。オトナなどの指導者を中心に、利害を聞いて、おきてをつくり、もめごとを解決したりしました。おきてをやぶると、村からの追放や死刑などの厳しい罰が、あたえられることもありました。裁判や警察の仕事も、公家・寺社や地頭代わりに、村越ぐるみ、自分たちでおこなうようになりなりました。このような、自治をおこなう村を、惣(むら)村)とよびます。

自治の村々—惣村
室町時代には、二毛作が日本を中心に広がります。肥料として大切な、草や木の葉を肥料の管理や、用水の手入れも、共同でおこなわれました。田植えなどは、働き手の出いれもおこなわれました(前)。さらに、惣の手で年貢を集める村も多くなってきました。

—油商人、国々を行く—
室町時代には、灯火によって、じょうよに明るくなった。寺社の灯りも、えんがきや、水の子でつくられた。油商人たちは、

おきて
一、おきては、おきてがなければいけません。
一、おきては、おきてがなければいけません。
一、おきては、おきてがなければいけません。

帯をつくる女性、油を売る商人の姿から、社会の基底を成していた座や惣村の活力に迫ります。

(2) 綿花と底めけタンゴ —産業の発展—

底めけタンゴの桶
綿花を染めるには、お湯が必要です。お湯を熱くするのには、お湯を煮る必要があります。お湯を煮るには、お湯を煮る必要があります。

底めけタンゴの桶
綿花を染めるには、お湯が必要です。お湯を熱くするのには、お湯を煮る必要があります。お湯を煮るには、お湯を煮る必要があります。

底めけタンゴの桶
綿花を染めるには、お湯が必要です。お湯を熱くするのには、お湯を煮る必要があります。お湯を煮るには、お湯を煮る必要があります。

底めけタンゴの桶
綿花を染めるには、お湯が必要です。お湯を熱くするのには、お湯を煮る必要があります。お湯を煮るには、お湯を煮る必要があります。

綿花をつくる百姓が工夫した独特の桶。綿花は村を変え、社会を変えていきました。

6 文化を生み出した 感動に立ち会う

文化遺産や作者の名まえだけに止まらず、文化を生み出した人びとの願いや社会の状況、文化を継承していった人びとの営みなどを描き出しました。

伝統と文化

(7) 女性作家の登場 —平安時代の文化—

光源氏の恋と愛
光源氏は、11世紀のはじめころに書いた小説『光源氏』の主人公です。天皇の子として生まれ、学問や歌ばかりでなく、舞や能にも才能を発揮する、すぐれた青年に成長します。父である天皇の新しい愛となった藤原家が持ちをつるせがみで、さらに多くの女性たちと出逢います。

「うつくしきもの」
つくしきもの「心ときめくもの」などをあげながら、日常の生活や世の中の様子を、ひらがな(一部漢字)で自由に書かれています。清少納言は「枕草子」で、「ありがたきもの」(めでたないこと)として、「妻の交にほめられる翁」(あけて)をあげています。男性は結婚すると妻の家に入り、その両親と同居しました。子どもが生まれると夫婦が自分の家をもつことが多くなります。妻が夫の両親と同居することはありませんでした。

女性作家たちが生み出した文学の世界から、平安時代に生きた人びとの姿を実感します。

(12) 禅の文化、民衆の文化 —室町時代の文化—

盆おどりの誕生
1420年は、春から日戻りにつき、よく年にかけて大きくなりなりました。伝説が大流行し、多数の人たちが食べ物を求めて、京都におしよりました。しばらく前から伝説不願やききんはありましたが、このあたり近畿地方には、ききんがたびたびおきました。このとき、伏見(京都府)でも多くの犠牲者が出ました。村人たちは、亡くなった人びとを供養し、百万遍念佛がおこなわれなりました。しばらくつと、盆は、死者を供養する盆おどりにもつなげられなりました。

文化の中心となった禅宗寺院
室町時代には、鎌倉時代におこった浄土宗(一向宗)や法華宗(日蓮宗)などの新しい仏教が、信者を大きくふやしました。しかし、幕府は禅宗を重視したため、国の中心では禅宗が栄えました。とくに京都や鎌倉の五山といわれた寺院は政府の保護を受け、禅宗の僧侶の知識をいかして、外交文書起草するなど、学術や文化の中心となりなりました。金閣寺(金閣)に禅宗寺院の建築様式がとり入れられ、武家の文化に、公家の文化をまじりこんでいきました。禅宗の茶室の様式や、武家の住居にみえられた障子紙を生み出した。禅宗のまわりには、水

—縁を結ぶ人びと—
室町時代には、縁をよそと縁と通ずりし職人が、社会や文化の中心になりなりました。1465年には、徳川(徳川)の縁を結ぶ人びとが、縁をよそと縁と通ずりし職人が、社会や文化の中心になりなりました。縁をよそと縁と通ずりし職人が、社会や文化の中心になりなりました。

飢饉の犠牲者を悼む盆おどりが誕生しました。村の成長が生んだ文化は今につながります。

7 歴史の中の女性に光をあてる

歴史の主体としての女性

女性の働き、学びと創造、社会運動などを多くのページに記述し、だれもが個人として尊重しあえる社会について考えを深められるようにしました。

男女平等を主張した女性たち。高知で地方参政権が実現しますが、その行方は厳しいものでした。



(5) 国会を開こう —自由民権運動—

自由民権運動の演説会では、どのような人がどんなことを訴えたか

■女性にも参政権を
高知県の土佐郡唐人町に住む楠瀬喜多は、自由民権運動の陣頭に立ち、男性の憲案にまつて演説を聞きました。1878年、議会議員の選挙に参加しようとしたところ、戸主であっても女性には選挙権がなく、拒否されました。男性と同じように税金を納めるのに、女性というだけで投票できないのはおかしいと考え、税金を滞納しました。そして、県に払うように督促された時に、権を納税するので、男女同権かどうか教えてほしいと願い出しました。1880年、土佐郡上町町会は、女性戸主の参政権を認める規則を定めて県庁に提出しました。県側は女性を除外するように指示が、町会側がねばりつよく理由の説明を求めて交渉した結果、女性にも参政権を認める規則が実現しました。

■自由は土佐の山間より

1873年、坂田道助らが政府から遠く、薩摩(鹿児島)や長門出身の少数の高官が権力をもち、政治をすすめてきました。1874年国民の政治参加をすすめるために国会開設を求め、民選議員を政府に提出しましたが無視されました。そこで、坂田道助(高知)に帰る、同志の土佐と立志社を結成しました。教育を重視し、雑誌を発行し、演説会を開いて言論による運動をすすめてきました。土佐出身の楠木枝盛は、1883年までに300人以上も各地の招かれて演説思想などを説き、人間は生まれながらにして自由平等だと主張しました。「高知新聞」で、上町町会などで女性参政権が世界に先んじて実現していることを伝え、男女同権の国会開設をよびかけました。



(12) 女性は太陽だった —社会運動の広まり—

平塚らいてうは、元始、女性は太陽だったと宣言した。権利を求める運動はどのように広がっていったか

■教育の制度
1907年に、小学校6年間を義務教育とした。小学校卒業後の進学先には、高等小学校2年、中学校(男子)5年、女子学校4-5年などがあった。女子学校への進学率は、1920年に9%、1925年には15%近くになった。

■月のように生きたくない

平塚らいてうは女子学校を卒業後、設立されたばかりの日本女子大学に入学し、哲学や文学の本に読みふけりました。1911年、25歳のときに、女性の作家や詩人の作品を掲載する文芸雑誌「青鞥」を創刊しました。雑誌の編集や販売の仕事なども、女性たちが行いました。創刊号で、平塚らいてうは「元始、女性は実に太陽であった」と宣言します。当時、女性には選挙権も財産権もなく、自分の意思で結婚する自由もありませんでした。太陽である男性に従い、月のように生きることが、女性のあり方だとされていたのです。「青鞥」は、このような考えや制度を打ち破り、女性の人間としての可能性を開かせようと、よびかけました。新聞や雑誌は「青鞥」を激しく非難しましたが、女性たちからは共感の手紙が多く寄せられました。

■女性たちが団結すべきときがきた

このころ、多くの女性が社会で働いていました。1920年の第1回国勢調査では、男性の就業者1699万人に対し、女性就業者は1027万人でした。女性では、農業や紡績・製糸工場で働く人が多数を占め、タイピストや電話交換手など、新しい職業につく人も大勢いました。こうしたなか、1919年、平塚らいてうと劇団新青鞥は、女性の社会的地位を向上させるために、女性の同盟を結成し、個人協会をつくりました。

月のように生きたくない。太陽のように個性を輝かせる文芸運動、粘り強い参政権運動が展開されます。

教科書に登場する女性たち

- 卑弥呼・持統天皇・北条政子・エカチェリーナ2世など、強いリーダーシップをもった女性政治家たち
- 八条院暲子・亀屋五位女・津田梅子など、経済的・社会的な力をもった女性たち
- 紫式部・清少納言・樋口一葉・与謝野晶子など、文学に名を残した女性たち
- エリザベス=フリーマン (p.139)・ラクシュミー=パーイー (p.149)・ユグァンソン (p.202)・ゾフィー=シヨル (p.227)・山口シヅエ (p.248)・マルタ=クビシヨバ (p.265) など、平和と人権を求め、強権に抗した女性たち
- オランプ=ド=グージュ (p.140)・楠瀬喜多 (p.170)・岸田俊子 (p.171)・平塚らいてう (p.206) など、女性の権利の伸長のために活動した女性たち
- 夏淑琴(シアスーチン) (p.225)・アンネ=フランク (p.230)・ひめゆり学徒隊 (p.239)・佐々木禎子 (p.241、259)・金学順(キムハクスン) (p.271) など、身をもって歴史の証人になった女性たち

8 世界から、東アジアから歴史を見る

世界、東アジアとのつながり

世界、東アジアの記述を充実させ、日本と世界の歴史が相互に深くかかわっていることや、文化や生活の多様性に気づくことができるようにしました。

明から優遇されアジアの交易を担った琉球王国。多彩な交易で栄え、独自の文化が育ちました。



(13) アジアの海をつなぐ王国 —琉球王国—

琉球の船はどこへどんな物運んでいったか、ラッコの毛皮はどんなルートで手に入れたか

■マラッカに行く琉球船
1463年、琉球王国の那覇の港から、たくさんの商品を積んだ船がマラッカ王国(現在のマレーシアの一部)をめざして出航しました。船は、明の皇帝からあえられたものです。長さ40mほど、大砲や矢の射撃台を備えた軍艦です。乗っているのは約200人、琉球人の使節と兵士です。



19世紀に描かれた琉球の船。19世紀まで、琉球王国は中国に朝貢していた。 (中国美術院蔵、複製)



(5) 江戸を行く朝鮮通信使

通信使の行列は2000人。朝鮮はなぜ送り、幕府はなぜ受け入れたか

■漢城から江戸へ

江戸幕府は、徳川吉宗が将軍になったとき、対馬藩(長崎県)を通じて朝鮮に求め、朝鮮は通信使を派遣しました。正使や副使には教養ある高官が任命されて、使節は全部で500人にもなりましたが案内し、行く先々の藩からも人数が行列になりました。江戸に着くと、正使と副使は、国書を交換する儀式で、各藩は、行列が通る道を清掃することなどで触れを出して迎えること、見物人に不作法がないようにすることなどの触れを出しました。通信使が通らない地域の人びとも、接待の負担を求められました。めったに見られない行列だったので、多くの人びとが見物しました。また、地方の儒学者は宿を請ね、漢文を用いた筆談を教えるを請いました。今でも、通信使を迎えたことが、祭りや人形として各地に残っています。

■申維翰と雨森芳洲

このときの通信使の書記官・申維翰は、対馬藩の役人・雨森芳洲と、半年以上、いっしょに旅をしました。二人は、朝鮮語を使って遠慮なく話しかける間柄になったといわれます。次は、二人の会話です。



116

綿ぼりの中で働くイギリスの子ども。綿織物と蒸気船は、インドへ、アフリカへ、日本へと。



(3) 工場働く子どもたち —産業革命—

少年が朝5時半から働く工場は、どのように変わっていくのか、労働者は何を求めるようになったか



1825年の鉄道

■蒸気と綿ぼりの中で

7歳の男の子ジョンコウは、朝の5時半にベッドで起こされます。麦がゆの朝食をかきこみ、寄宿舎を出て、5時半には工場に入ります。綿花から糸を紡ぐ工場の中は、綿ぼりがたちこめ、むし暑くて35℃になることもあります。腰をかかめて床をはいまわり、綿くずを掃除します。昼に30分の食事時間をはさんで、夜の8時まで働きつづけます。疲れて床にすわりこむと、監督のムチがとびました。事故は目の前で起こりました。10歳のメアリのエブロンが、回転する機械の軸にはさまれ、体を巻き込まれたのです。片足を失った女の子に、工場主は見舞金さえ払いませんでした。1847年には、イギリスの綿工場の労働者の70%以上が、女性や18歳以下の子どもでした。

■手作業から機械へ

イギリスの人びとは、長い間、職人が手作業でつくった毛織物を着てきました。18世紀には、インドから綿織物が輸入され、人気を集めました。あざやかな色に染まり、軽くて、洗濯しやすいからです。イギリスでは、綿織物を速く、安く、大量に生産するために、新しい機械が次々に発明されました。アークライトは水力紡績機を発明し、いくつもの紡績工場を経営しました。蒸気機関を動力に使うようになると、工場は町につくられるようにな

142

朝鮮通信使の大行列が江戸に向かいます。豊かな交流、外交、交易の姿を描きます。

9 戦争の現実を知る 平和を考える

戦争と平和の 学習を深める

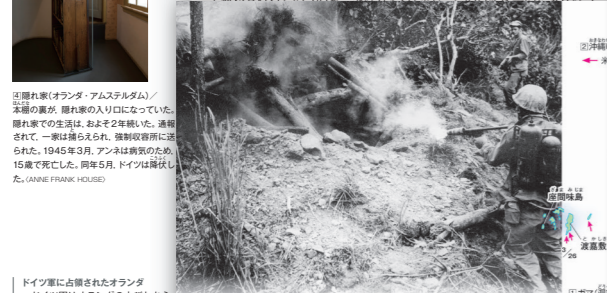
第9章「第二次世界大戦の時代」に15テーマをあてました。体験者の証言や人びとの姿から戦争の現実を知り、平和について考えを深められるようにしました。



アンネ＝フランクとオードリー＝ヘプバーンは、過酷な占領・戦争の下で、社会を問い続けました。

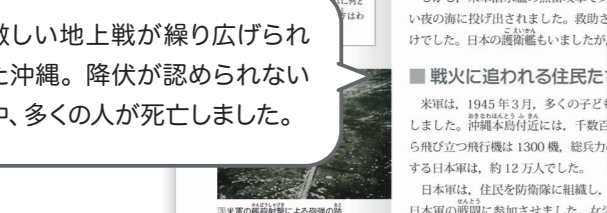
(9) 戦争と二人の少女 —ヨーロッパの戦争—

オランダにいた少女たち、オードリーはどんなことをしたか、アンネはどこへ連れていかれたか。



(13) 荒れ狂う鉄の暴風 —沖縄戦—

激しい地上戦が繰り広げられた沖縄。降伏が認められない中、多くの人が死亡しました。

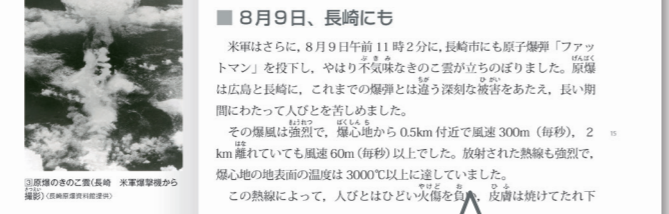


激しい地上戦が繰り広げられた沖縄。降伏が認められない中、多くの人が死亡しました。



(14) にんげんをかえせ —原爆投下—

原爆による広島・長崎の人びとの苦しみとはどんなものか。投下したアメリカの目的は何か。



加藤義典(17歳)は、原爆投下後の広島で子どもを助けられなかったことを悔やみ続けました。

10 主権者として 現代の課題に向き合う

充実した現代史を 公民学習につなげる

第10章「現代の日本と世界」に15テーマをあてました。歴史を今日の課題と結びつけ、よりよい社会の実現に向けて考えられるようにしました。



(6) ゴジラの怒り、サダコの願い —原水禁運動—

死の灰を吸った第五福竜丸。乗組員は目や面の痛み、吐き気を訴えました。皮膚に水ぶくれができ、髪の毛が抜ける人もいました。14日に焼津港(静岡県)に帰る途中、乗組員23人はすぐ入院し、急性放射線症と診断されました。白い灰は、アメリカがビキニ環礁で行った水爆実験によるものでした。この水爆の実験力は、広島原爆の1000倍もあり、4500km離れた日本でも、放射能を帯びた雨が降りました。乗組員の久保山愛吉が「原水爆の被害者は私を最後にしてほしい」という言葉をこめて、9月に死亡しました。11月には、映画「ゴジラ」が公開されました。水爆実験で壊された怪獣ゴジラが、東京を襲うという話です。



(15) 感染症に立ち向かう

世界を覆う感染症と絶えない戦争。この世界でともに生きていくために歴史をふり返って考えます。



(15) 感染症に立ち向かう

1918年のパンデミック。1918年3月、アメリカ・カンザス州の軍の基地で、インフルエンザが発生しました。3週間後には1100人以上が入院し、38人が死亡しました。第一次世界大戦に参加したアメリカは、多くの兵を戦場に送ったため、ヨーロッパにも感染が広がりました。各国は積極的に対応しました。日本でも、5月ごろから、各地の軍隊を通して感染が拡大しました。英軍兵隊のある出雲県では、10月から各地の小中学校で児童の半数以上が感染し死亡者が続出したため、閉鎖されました。全国で感染者が増えましたが、病状を見分けることはできませんでした。学校の遠征や運動会も中止になり、役所はマスク着用を呼びかけ、集会などを禁止しました。郵便や鉄道にも大きな影響がでました。このパンデミック(世界的流行)は、1920年夏まで続きました。世界で4000万人、日本では国民の半もが74万人が死亡しました。



(15) 感染症に立ち向かう

突然、原爆症を発症した佐々木禎子(12歳)の願いに寄りそって、戦後の世界を見つめます。

11 表現する、話し合う 考えを深める

章や部のまとめでは、さまざまな活動を通して「主体的・対話的で深い学び」へと導きます。

第2部 中世(3章をふりかえる) 学習のまとめ

① 右の年表の①～⑤に関する問いの答え(都市名・国名)を、下のまとめ表に入れましょう。また、下の地図から都市や国の位置を記し、まとめ表に入れましょう。

年表の①～⑤に関する問い	都市名・国名	地図上の記号
① 元寇の足や平治の乱が起こった都市		
② 平治の乱や平治の乱をきっかけとした国		
③ 奥州藤原氏が中興を建てた都市		
④ 源頼朝が幕府を執った都市		
⑤ 明との交易の拠点となった都市		

② 学習をふりかえり、自ら(4)の課題を文章にまとめてみましょう。印象に残ったことや、さらに知りたかったことがあれば、それらも書きましょう。グループやクラスで発表しましょう。

③ 年表の①～⑤に関する問いの答え(都市名・国名)を、下のまとめ表に入れましょう。また、下の地図から都市や国の位置を記し、まとめ表に入れましょう。

④ 年表の①～⑤に関する問いの答え(都市名・国名)を、下のまとめ表に入れましょう。また、下の地図から都市や国の位置を記し、まとめ表に入れましょう。

⑤ 年表の①～⑤に関する問いの答え(都市名・国名)を、下のまとめ表に入れましょう。また、下の地図から都市や国の位置を記し、まとめ表に入れましょう。

時代の特色に沿った表現活動
絵画資料が豊富な中世(第2部)のまとめは、絵画から人びとの声を想像する活動をします。近世(第3部)は、将軍、大小の商人、百姓、アイヌなど様々な人びとへのインタビュー記事をつくる表現活動を置いています。

年表や地図の活用
できごとを関連させてふりかえります。

多面的、多角的に考える、話し合う
テーマに応じて学習したことを比較したり関連させたりし、意見を交換して考えを深めます。

第3部 近世(4章・5章) 学習のまとめ

① 年表を見て、問いに答えましょう。

② 次の外国の動きは、年表中AからDのどの時期に起こったでしょうか。

③ 第3部に出た次の人物たちに、インタビューをして、記事を書きましょう。

④ ③の人物インタビューの発表を聞いて、近世・江戸時代はどんな時代だったか考えましょう。前の時代と比べてりしながら、まとめましょう。グループやクラスで発表しましょう。

⑤ ④の人物インタビューの発表を聞いて、近世・江戸時代はどんな時代だったか考えましょう。前の時代と比べてりしながら、まとめましょう。グループやクラスで発表しましょう。

時代を大観する
自分の言葉で時代の特色を表現します。

12 歴史を体験する

授業実践の蓄積から、選りすぐった体験学習を紹介します。

地域の博物館で調べる

地域の歴史を学ぶには、博物館が重要な役割を果たしています。地域の歴史や文化を学ぶには、博物館を訪ね、展示品を見学し、資料を調べることが大切です。

① 水鏡をたどってみよう
学校の近くを小さな水鏡が流れています。これはもしかしたら古くからあったものかもしれません。近くには流れていません。水は、どこから来て、どこに流れているのか、たどってみよう。

② 水鏡は街道に沿ってうねうねと
水鏡は、街道に沿って、農家の田舎をうねうねと流れています。水鏡は、街道に沿って、農家の田舎をうねうねと流れています。水鏡は、街道に沿って、農家の田舎をうねうねと流れています。

③ 新田村の歴史を調べる
新田村の歴史を調べるには、地域の博物館を訪ね、展示品を見学し、資料を調べることが大切です。

④ 小平ふるさと村
小平ふるさと村は、地域の歴史を学ぶには、博物館が重要な役割を果たしています。

地域の歴史を歩く
用水路を歩き、さまざまな発見をしながら地域の歴史を探ります。

歴史討論学習
『学問のすゝめ』をどう読むか、白熱の討論がくり広げられます。

- ### 歴史を体験する全7テーマ
- 火と人類の歴史をさぐる
 - インターネットで「洛中洛外図屏風」を見る
 - 地域の歴史を歩く
 - 綿から糸を紡ぐ
 - 対話・討論にチャレンジ
 - 山本宣治の人物調べ
 - 一人ひとりの歴史・家族の歴史

対話・討論にチャレンジ

『学問のすゝめ』をどう読むか、白熱の討論がくり広げられます。

① 学問のすゝめを、要約する
『学問のすゝめ』は、明治維新後の1872年から各編の出版が始まり、1880年に全17編が一冊の本にまとめられた。この本は、人びとに大きな関心をもって受けとられた。それは、日本の人口が約3000万であった当時、300万部以上が売れた大ベストセラーであったことからもわかる。

② 感じたこと、思ったことをもとに、対話・討論する
次に、「一人ひとりの歴史」をどう読むか、白熱の討論がくり広げられます。

③ あるクラスの議論から
『学問のすゝめ』は、明治維新後の1872年から各編の出版が始まり、1880年に全17編が一冊の本にまとめられた。この本は、人びとに大きな関心をもって受けとられた。それは、日本の人口が約3000万であった当時、300万部以上が売れた大ベストセラーであったことからもわかる。

④ 問いを深めていくということ、問いを学ぶということ
『学問のすゝめ』は、明治維新後の1872年から各編の出版が始まり、1880年に全17編が一冊の本にまとめられた。この本は、人びとに大きな関心をもって受けとられた。それは、日本の人口が約3000万であった当時、300万部以上が売れた大ベストセラーであったことからもわかる。

13 一人ひとりに応じた学習のために

年表・地図・グラフ・索引、表記の工夫

年表で関連をつかむ、深める(全12ページ)

「日本の社会・政治・経済の動き」「日本の文化・宗教」「世界の動き」の欄を設け、大きな流れや、できごとの関連をつかめるようにしました。

時代区分に「北海道など」「本州など」「沖縄など」の欄を設けて、各地のできごとを具体的に捉えられるようにしました。

政府のしくみや系図を置いています。

鮮明な写真を豊富に掲載

読み取りやすい地図、グラフ

カラーユニバーサルデザインに配慮し、色、線、マークなどを見やすく工夫しています。



学年に応じた表現・表記

文章表現や漢字の使用・ルビふりなどを、想定される学習学年に即して編集しました。

- 例**
- 1年 さかん
 - 2年 盛ん
 - 1年 ど 奴隷い
 - 2年 奴隷

- ひばくしゃ 被爆者 241, 258
- ひぼうりやく 非暴力・不服従 203
- ひみこ 卑弥呼 6, 30
- ひめじじょう 姫路城 107
- ひめゆりの塔 239
- ひびく 百姓 96, 99, 100, 103, 108, 110, 113, 121, 122, 131, 150, 156

索引

歴史事項・人物の他に、地名や「生糸」「銀」などの産物や「百姓」「武士」「きぎん」などの用語を載せ、歴史を通観できるようにしました。

- ふじわらのよしふき 藤原良房 49
- ふじわらのよりみち 藤原頼通 49, 51
- ふだいたいりやう 譜代大名 101
- ふつうせんきよほう 普通選挙法 208
- ぶつぎやう 仏教 19, 37, 38, 51, 56, 72, 93, 103, 125, 282
- ぶつだ ぶつだ 18
- ふてんまきち 普天間基地 267

14 人びとの息づかいを感じる地域教材

「ともに学ぶ人間の歴史」で取りあげている主な地域教材

充実した地域の視点

琉球 - 沖縄から蝦夷地 - 北海道・千島まで、地域の歴史と文化を大切に扱っています。

都道府県	市区町村	地域教材	都道府県	市区町村	地域教材
北海道	松前町	昆布をとるアイヌの人びと (P.114)	滋賀県	東近江市	今堀の惣掟 (P.75)
	新ひだか町	シャクシャイン (P.115)		安土市	安土城 (P.95)
	札幌市	開拓使 (P.176)		高島市	雨森芳洲 (P.116)
青森県	函館市	中空土偶 (P.283)	京都府	京都市	伏見荘 (P.78)
	青森市	三内丸山遺跡 (P.27)		京都市	伏見寮 (P.253)
岩手県	五所川原市	十三湊 (P.81)		宇治市	祇園祭 (P.94)
	外ヶ浜町	大平山元遺跡 (P.27)	山崎町	山本宣治 (P.210)	
福島県	平泉町	中尊寺 (P.61)	大阪府	大山崎町	油商人 (P.75)
	水沢市	高野長英 (P.130)		堺市	大古古墳 (P.33)
宮城県	大槌町	石碑から木碑へ (P.274)		大阪市	淀屋辰五郎 (P.112)
	双葉町・大熊町	福島第一原子力発電所 (P.274)	八尾市	河内木綿 (P.110)	
山形県	古川市	吉野作造 (P.208)	千早赤阪村	千早城 (P.70)	
	多賀城市	多賀城 (P.48)	富田林市	寺内町 (P.95)	
茨城県	山形市	「長谷堂合戦図屏風」 (P.92)	堺市	与謝野晶子 (P.189)	
	米沢市	上杉治憲 (P.119)	奈良県	明日香村	飛鳥寺 (P.38)
鶴岡市	「夢の浮橋」 (P.122)	橿原市		藤原京 (P.39)	
つくば市	「常陸国風土記」 (P.45)	柳生町		ほうそう地蔵 (P.76)	
栃木県	鹿島市	悪路王 (P.48)	田原本町	唐古・鍵遺跡 (P.30)	
	坂東市	平将門 (P.58)	松阪市	本居宣長 (P.125)	
群馬県	佐野市	田中正造 (P.195)	三重県	鈴鹿市	大黒屋光太夫 (P.128)
	みどり市	相澤忠洋 (P.25)	和歌山県	かつらぎ町	柿田荘絵図 (P.60)
渋川市	黒井峯遺跡 (P.32)	有田川町		阿テ河荘 (P.66)	
埼玉県	高崎市	三ツ寺遺跡 (P.32)	兵庫県	太子町	荘園の境界石 (P.60)
	富岡市	官営富岡製糸場 (P.168)		豊岡市	斎藤隆夫 (P.290)
行田市	稲荷山古墳鉄剣 (P.33)	神戸市		大輪田泊 (P.57)	
千葉県	秩父市	秩父事件 (P.173)	神戸市	阪神淡路大震災 (P.292)	
	千葉市	千葉常胤 (P.62)	姫路市	姫路城 (P.107)	
東京都	江東区	深川江戸資料館 (P.121)	岡山市	瀬戸内市	福岡の市 (P.67)
	墨田区	山口シヅエ (P.248)	早島町	朝日茂 (P.261)	
	台東区	台東区子供議会 (P.252)	広島県	三原市	和霊石地蔵 (P.67)
	中央区	「照代勝覧」 (P.120)		広島市	原爆の子の像 (P.259)
	西東京市	田無尋常小学校 (P.190)	山口県	下関市	下関砲台 (P.153)
小平市	鈴木分水 (P.132)	島根県	大田市	石見銀山 (P.82)	
調布市	布田郷学校 (P.164)		高知市	東洋大日本国憲法 (P.173)	
神奈川県	東村山市	全生園 (P.209)	高知県	高知市	楠瀬喜多 (P.170)
	羽村市	羽村市郷土博物館 (P.132)		土佐清水市	ジョン万次郎 (P.130)
	あきる野市	五日市憲法 (P.172)	徳島県	松茂町	榎地帳 (P.96)
	川崎市	池上幸豊 (P.119)	福岡県	大野城市	大野城と水城 (P.39)
	横須賀市	夏島貝塚 (P.26)		福岡市	地下鉄工事遺跡の磁器 (P.56)
鎌倉市	建長寺 (P.65)	福岡市		金印 (P.31)	
山梨県	小田原市	石切り場 (P.100)	佐賀県	福岡市	板付遺跡 (P.28)
	相模原市	外山亀太郎 (P.191)		北九州市	官営八幡製鉄所 (P.195)
長野県	甲府市	源頼朝像 (P.62)	長崎県	吉野ヶ里町	吉野ヶ里遺跡 (P.29)
	松本市	開智学校 (P.164)		唐津市	名護屋城 (P.98)
岐阜県	阿智村	満州開拓団 (P.221)	熊本県	長崎市	高校生1万人署名運動 (P.277)
	信濃町	野尻湖 (P.24)		対馬市	朝鮮通信使 (P.116)
静岡県	郡上市	郡上一揆 (P.123)		鹿児島県	対馬市
	高山市	野麦峠 (P.194)	島原市		島原・天草一揆 (P.103)
愛知県	焼津市	第五福竜丸 (P.258)	鹿児島県		島原市
	田原市	渡辺華山 (P.131)		荒尾市	水俣病 (P.263)
新潟県	名古屋市	東山動物園 (P.252)		水俣市	島原・天草一揆 (P.103)
	豊栄町	木崎村農民組合 (P.205)	宇土市	向野田古墳 (P.31)	
富山県	砺波市	召集令状 (P.232)	鹿児島県	鹿児島市	薩摩焼 (P.99)
	富山市	米騒動 (P.204)		南種子町	火縄銃 (P.92)
石川県	金沢市	大名行列 (P.101)	沖縄県	南さつま市	万世基地 (P.235)
	金沢市	「農業図絵」 (P.108)		糸満市	魂魂の塔・平和の礎 (P.4)
福井県	若狭町	鳥浜貝塚 (P.26)	沖縄県	嘉手納町	嘉手納基地 (P.266)
	南越前町	北前船 (P.115)		うるま市	宮森小学校 (P.266)
				沖繩市	くすぬち平和文化館 (P.267)
			伊江村	黒田操子 (P.261)	

15 問いを生む授業づくりのために

教師用指導書・授業づくり通信・教科書セミナー・授業ブックレット

刊行物などのご案内

教師用指導書

第9章(12)「町は火の海」—本土空襲と学童疎開 指導書 pp.228-229 教科書 pp.236-237

授業のねらい
このテーマでは、学童疎開の「疎開組」と「残留組」の様子をみながら、空襲下で両者にどんな問題が生じたか、学童疎開は子どもの命を守ったのか考えます。

主体的な学びを深める授業展開例
子どもの気づきから授業が始まります。「疎開組」と「残留組」の資料や証言から浮きぼりになる戦争の現実を、子どもたちは想像し共感しながら考えを深めていきます。



本文・図版・側注を詳しく解説。授業にそのまま使える資料も掲載。

2025年3月発売予定・価格未定／企画中のため記載内容は変更する場合があります。



授業づくり通信 (定期刊行物)

問いを生む授業づくりのヒントが満載

教科書セミナー

2023年度は、「子どもが生き生きと主体的に学ぶ歴史教育」をテーマに、授業実践報告から学び合う研究会を夏に開催しました。

研究から生まれる教科書
学び舎中学歴史教科書は、授業実践研究をもとに編集した教科書です。教科書を発行した後も、子どもたちが主体的に学ぶ歴史の授業について研究会で学びを深めています。教師用指導書も研究会で編集しています。また、授業づくりに資する刊行物を発行しています。

学び舎授業ブックレット (年3回発行・700円+税)

第17号は、2025年版教科書の授業づくりの論考を特集しました。(2024年4月発売予定)

野尻湖遺跡の発掘に参加して歴史の扉を開いたのは中学生でした。子どもが主人公の図版から、自分に連なる歴史学習が始まります。

子どもたちの図版からはじまる歴史の授業

第1章(7)湖にゾウを追う (教科書 pp.24~25)

榎崎 由美

(7)湖にゾウを追う —日本列島の旧石器時代—

一揆を描いた絵巻や傘連判状、子どもが学んだ一揆の訴状を読み解き、百姓の願いと成長に迫る授業づくりのヒントを記述しました。

訴訟する百姓たち

第5章(8)地鳴り山鳴り、のぼりを立て (教科書 pp.122~123)

山田 麗子

1 はじめに
江戸時代、百姓は人口の8割以上を占めていた。百姓の生活や願い、成長を知ること、子どもたちにとって自分につながる学びとなる。教科書第5章「百姓と町人の世」では、米や綿花などの生産に励む百姓の姿、年貢の取り立てや村のしくみなどについて具体的に記述した。こうした生活のなかで、百姓たちはどのような願いをもっていたのだろうか。生活に大きな不安が生じて立ち行かなくなった時、どのような行動をとったのだろうか。5章(8)「地鳴り山鳴り、のぼりを立て」では、百姓たちの願いと行動、その成長を一揆や訴訟を通して描いた。教科書で取り上げたのは、19世紀の庄内藩三方領地がえ反対一揆、18世紀に多くの犠牲を出した郡一揆、寺子屋の教材になった17世紀の白岩一揆、船屋兵助が家族のために起こした訴訟の4つのできごとである。本稿ではこれらについて、授業づくりのヒントになるよう、生徒とのやり取りの例を交えながら解説した。

2 庄内藩三方領地がえ反対一揆
(1) 絵巻『夢の浮橋』の魅力
教科書では、4つのできごとのうち、19世紀の庄内藩三方領地がえ反対一揆が

3 女性と自由民権運動

第7章(5)国会を開こう (教科書 pp.170~171)

鳥塚 義和

1 はじめに
大学の社会科・地理歴史科教育法の授業で、学び舎の教科書を分析した学生は、「女性は太陽だった—社会運動の広まり— (pp.206~207)」という項目を具体的に取り上げて、次のように指摘している。
「一つの特徴として、本来の教科書とは違う視点を重点的に書かれていることを挙げる。例えば以下にみる社会運動のように、女性の視点である。私は、歴史の教科書は社会的多数派の視点や、日本政府の視点が多いと感じてきた。後者については国家による教科書検定があることは一つの要因である。しかし学び舎の教科書は、女性やアイヌ民族など社会的少数派を複数箇所に取り上げ、(中略)多様な視点が盛り込まれている」
学び舎教科書の特徴をとらえた的確な分析である。そして、「学び舎の教科書を活用すると、まず子どもは平塚らいてうに興味を持つところから始まり、続いてなぜ女性が差別されたのかという疑問に至り、そして自分たち、あるいは教師が資料を準備して学びを深めていくという授業構成を想定する」と、子どもの側に立ってその学びの道すじを想定し、授業づくりの方法を構想している。

演説会に通う楠瀬喜多と各地を遊説した岸田俊子。女性参政権を求めるたたかいは高知に取材し、女性の視点から歴史を問い直します。

4 「独立マンセー (万歳)」の授業をつくる

第8章(10)独立マンセー (教科書 pp.202~203)

三橋 広夫



柳寛順、浅川巧の生き方と時代の様相から、植民地支配を多面的に考えます。子どもたちの歴史認識を深く鍛える授業実践の記録。